

## 2 道路整備計画

### (1)「浜見平地区まちづくり計画」における位置づけ

道路整備計画については、「浜見平地区まちづくり計画」において「道路・交通ネットワーク」、「緑・歩行者ネットワーク」として、次のように位置づけられています。

＝「浜見平地区まちづくり計画」における道路整備計画の位置づけ＝  
(道路整備関連のみ抜粋)

#### ■道路計画■

##### ●道路の整備

- ・幹線道路は、現在線形を基本に歩行者の安全性、快適性に配慮し整備を行う。
- ・地域の利便性及び災害時のアクセス性を考慮し、地区内横断道路の導入を行う。
- ・歩道は、歩行者や自転車の安全性、高齢者や車椅子の行動にあわせて、ユニバーサルデザイン\*に配慮し、快適な幅員・仕上げを施す。
- ・通過交通への配慮を行う。

##### ●地区内通路の整備

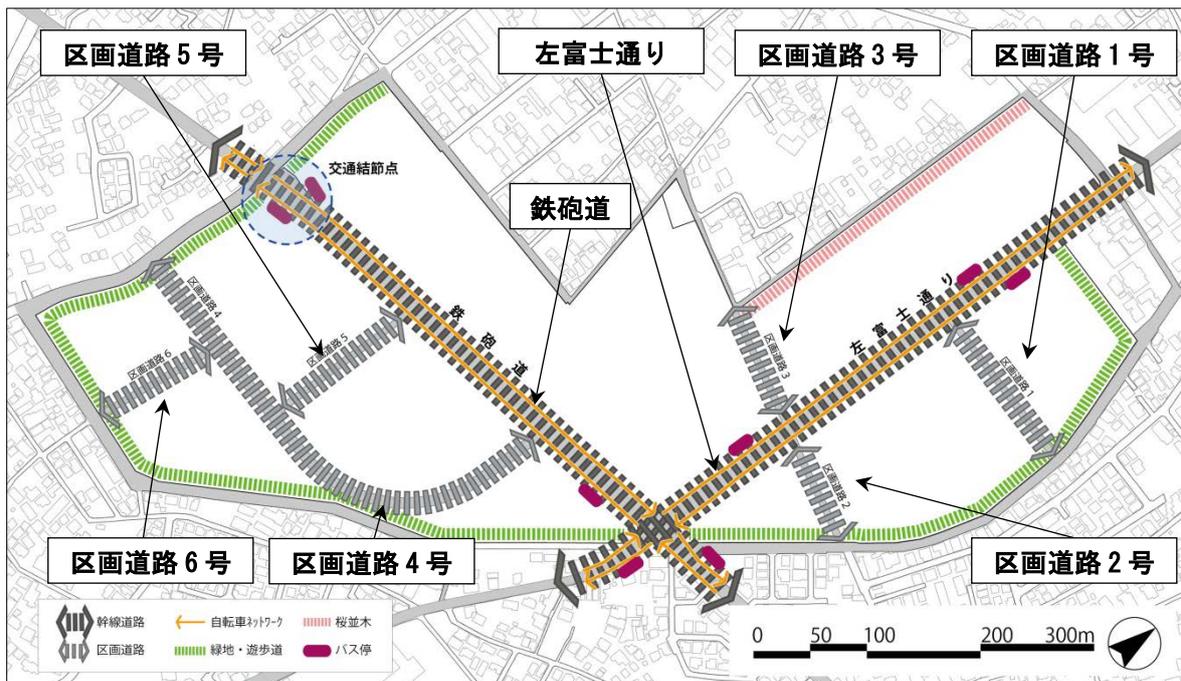
- ・住棟へのアクセスに配慮しつつ、歩行者の安全性に配慮する。

#### ■幹線道路沿いの並木整備■

- ・幹線道路沿いは景観創出のため、並木空間の保全・創出を図る。

[鉄砲道沿い] 既存並木を保全・継承しつつ、落ち着いた居心地の良い生活空間としてのストリート

[左富士通り沿い] 海を感じさせる明るく開放的なストリート



■道路位置図

\*ユニバーサルデザイン：すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間等をデザインすること。アメリカのロナルド・メイスイが提唱。

## (2) 整備方針

「浜見平地区まちづくり計画」を踏まえ、当地区の幹線道路となる鉄砲道、防災機能を有する公園へのアクセス路となる区画道路について、整備計画案を策定します。

計画案の策定に際しては、以下の方針を踏まえた計画とします。

### ●安全で快適な歩行者機能を確保します。

- ・計画対象道路は、生活拠点又は防災拠点へと至る重要な歩行者アクセス路であり、地区計画に基づき歩道空間を併置し、歩車分離型の断面構造を確保します。
- ・歩きたくなる魅力的な歩行者空間を確保するため、地区計画に基づき、沿道敷地内の幅2～3mを道路と一体化した空間として整備します。
- ・鉄砲道と左富士通りについては電線類を地中化し、維持管理や景観、防災の向上等に対応します。
- ・その他の道路についても防災の向上に対するため、無電柱化を検討します。

### ●歩行者と自転車の事故を回避します。

- ・地区内の幹線道路であり、生活拠点への自転車によるアクセス等が考えられる鉄砲道と左富士通りについては、安全でスムーズな歩行者と自転車の通行が図れるよう、道路交通法の改正（平成19年6月）を受け、自転車は車道通行が原則となることから、車道内に自転車専用通行帯、または自転車と自動車を混在通行とする道路として矢羽根型路面標示を整備します。

### ●緑豊かな、潤いある道づくりを行います。

- ・既存樹木の保全や地区内樹木の移植を行う等、地区の記憶を継承する並木や沿道緑地の形成により、本地区のメインストリートとなる緑の骨格を形成します。
- ・地区計画に基づき、道路沿い敷地の幅2～3mを道路空間と一体化した歩道状空地として確保し、道路植栽を補う低木等の多様な植栽を施し、彩りと潤いのある沿道景観を演出します。

### (3) 整備状況

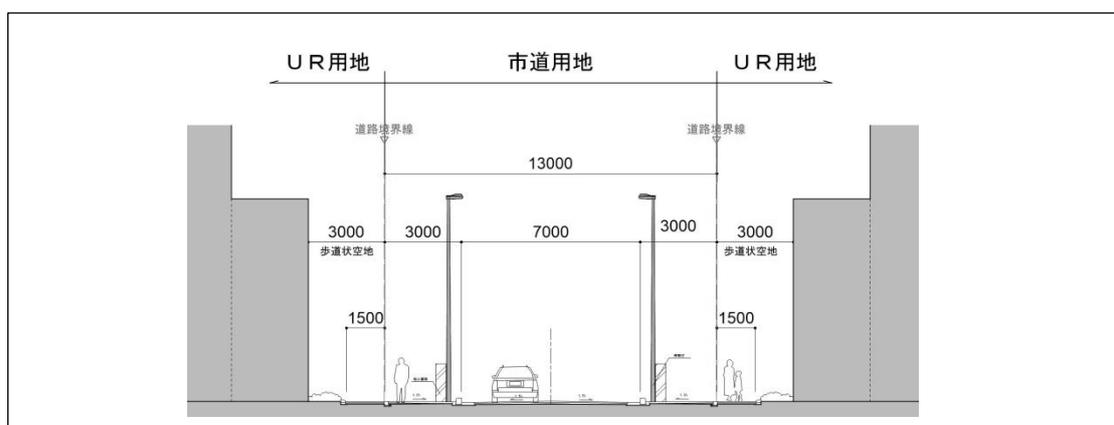
#### ア 左富士通り

「浜見平地区まちづくり計画」及び「浜見平地区まちづくり整備実施計画」を踏まえ、左富士通りは平成 22 年度に着手し、平成 28 年 7 月に整備されています。

道路幅員を 13m（車道幅員 7m、歩道幅員 3m+3m）とし、地区計画に基づき、沿道の敷地内において幅 3m の歩道状空地の整備を図っており、両側とも実質 4.5m の歩行者空間が整備されています。

電線類の地中化により良好な景観を形成するとともに、災害時の安全性や維持管理の向上に対応しています。

左富士通りは、自転車ネットワーク路線に指定されていることから、自転車走行位置を示す路面標示が整備されています。



■断面構成図



道路空間と沿道のまち並み



建物の外観の色彩に合わせた照明ポール



壁面後退部と一体となった歩道空間



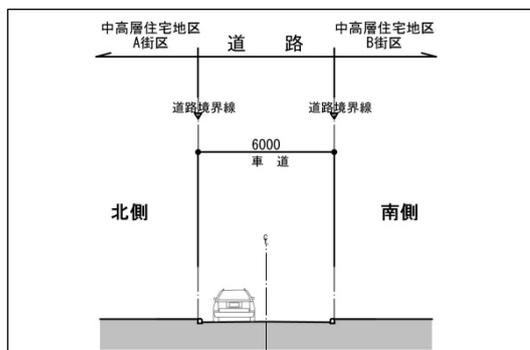
建物の外観の色彩に合わせた照明分電盤

## イ 区画道路（1号～3号）

区画道路においては、道路に接する沿道の敷地内において、地区計画に基づき幅2mの歩行者用通路を確保し、道路と一体化した快適な歩行者空間が整備されています。

### ①区画道路1号

北側敷地において、敷地内に周辺住民も通行できる歩道状空地进行を確保しています。



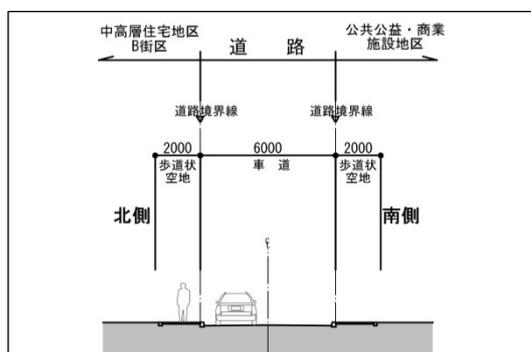
■断面構成図



■現況写真

### ②区画道路2号

両側に歩道状空地进行を確保し、南北両敷地間で樹木を植栽する位置を調整しています。



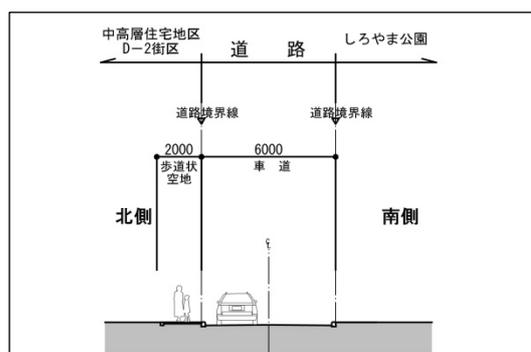
■断面構成図



■現況写真

### ③区画道路3号

北側敷地において、住棟1階の専用庭と植栽帯で建物ボリュームを和らげています。



■断面構成図



■現況写真

注) 区画道路3号は、連続する西側道路と合わせ平成34年度に供用開始予定です。

## (4) 整備計画案

### ア 鉄砲道

#### ①デザインの基本的考え方

鉄砲道全体のリニューアル検討やまちづくり計画を踏まえ、鉄砲道のデザインの基本的考え方を以下のように設定します。

- ・既存樹木を活用した緑豊かで歩いて楽しい歩行空間の形成
- ・安全で快適な出掛けて楽しい歩行機能の確保
- ・道路附属物等のデザイン・色彩の統一

#### ②デザイン構成要素等の方向性

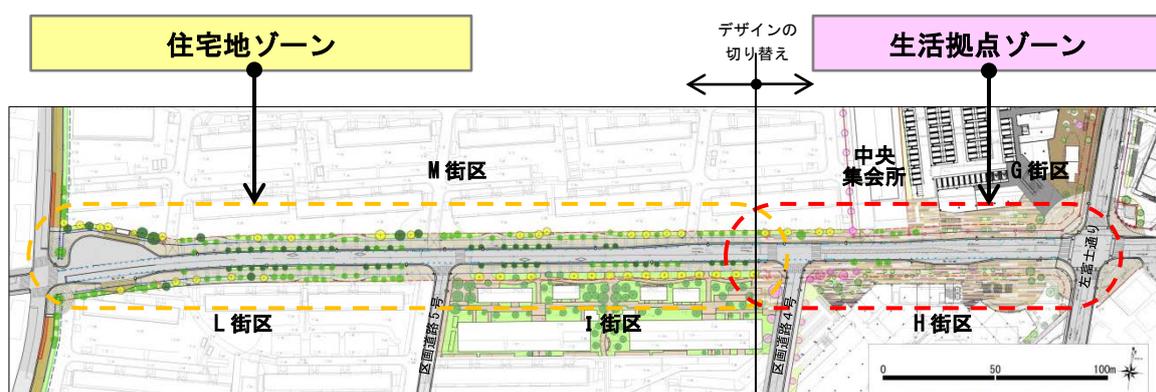
デザインの基本的考え方と浜見平地区におけるこれまでの整備状況を踏まえ、デザイン構成要素等の方向性を以下のように設定します。

- ・生活拠点ゾーンや住宅地ゾーンの土地利用に応じ、沿道敷地と道路のデザインが一体となった道路景観の創出
- ・左富士通りとデザイン要素を統一し、わかりやすいまちの骨格の具現化

#### ③ゾーン別のデザインの基本的考え方

生活拠点ゾーンと住宅地ゾーンのデザインの基本的考え方を以下のように設定します。

- ・生活拠点ゾーン：H・G街区の外構デザインと一体となったにぎわいを演出する道路景観の創出
- ・住宅地ゾーン：既存のヤマモモを活かし、中高層住宅地のプロムナード\*と一体となった緑豊かな道路景観の創出



■鉄砲道全体図

#### 【鉄砲道の名称の由来】

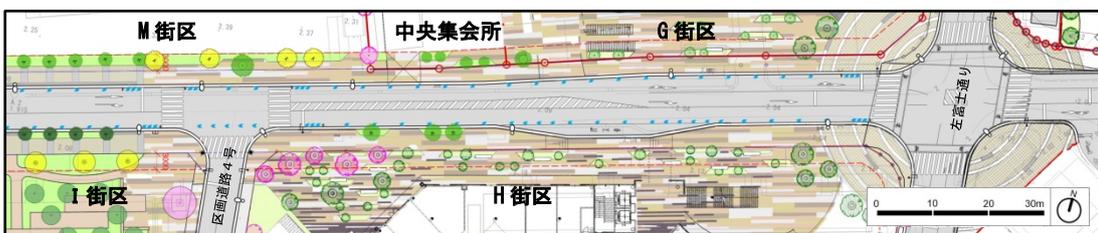
鉄砲道の名の起りについては、いろいろに言われている。享保 13(1728)年、徳川幕府は、南湖から藤沢片瀬に至る幅約一キロにわたる海岸線に、陸海両様の砲術訓練場を設けた。海岸防備と、時代の先端兵器である火砲の操法や射撃の訓練が目的で、俗に「鉄砲場」と呼ばれていた。砲術演習の時、訓練のための大砲を運び、鉄砲隊の武士たちが往来した道が、いつか鉄砲道と呼ばれるようになったというのが通説であるが、伊豆葦山で造られた大砲を柳島湊で陸揚げして、試射場へ運んだ道であるとの説もある。(「ふるさとの歴史散歩」(昭和 58 年 6 月 28 日発行 茅ヶ崎郷土会))

\*プロムナード：浜見平地区地区計画において、地区施設の「その他の公共空地」に位置付けられている幅員3m施設で、幹線道路沿いに、まち並み景観の創出のための並木空間を保全、整備し、歩道と一体となった賑わいの形成を図ることを目的としている。

#### ④平面計画

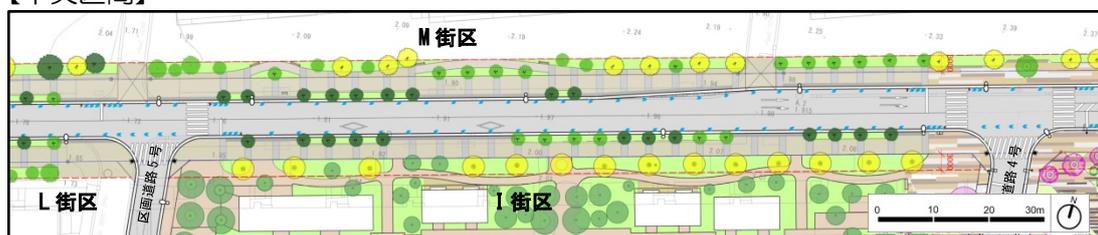
交差点部の車線数やバスベイの設置等、車道部の制約と電線類地中化の計画を踏まえ、既存のヤマモモを保全活用するとともに、沿道の土地利用に応じてプロムナードを計画し、一体的な緑の空間と心地よい歩行者空間となるよう検討します。

##### 【東側区間】（北側 I 街区・中央集会所等、南側：H 街区）



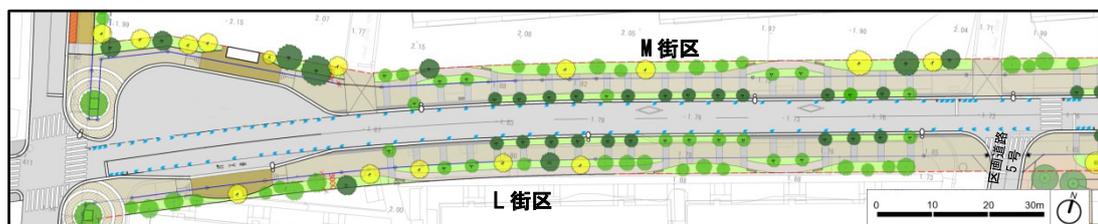
- この区間は生活拠点ゾーンであり、交番前交差点の右折車線、区画道路4号との交差点における西側方向からのみなし右折レーンの設置とH街区側のバスベイが確保されることから、既存のヤマモモを残すことはできませんが、両側の商業施設の敷地内の空地と合わせ、一体的な歩行者空間を形成します。
- 区画道路4号のT字交差点においては、区画道路4号の南方向からのアイストップ\*となる景観木（クスノキまたはタブノキ）を植栽します。また、生活拠点ゾーンと住宅地ゾーンの舗装パターンの切り替えは、西側の停止線を境界とすることを基本とします。

##### 【中央区間】



- 南側の I 街区はUR賃貸住宅であり、歩道とプロムナードとの間の緑地空間には既存のイチョウを保全し、歴史の継承を図ります。また、沿道の集会所等は、沿道のまち並みへの積極的参加が促せるよう、デザインを工夫します。
- 北側は、具体的な施設計画が未検討の状況ですが、具体的な検討を行う段階で、本整備実施計画の考え方に基づき、整備を行うことを基本とします。

##### 【西側区間】



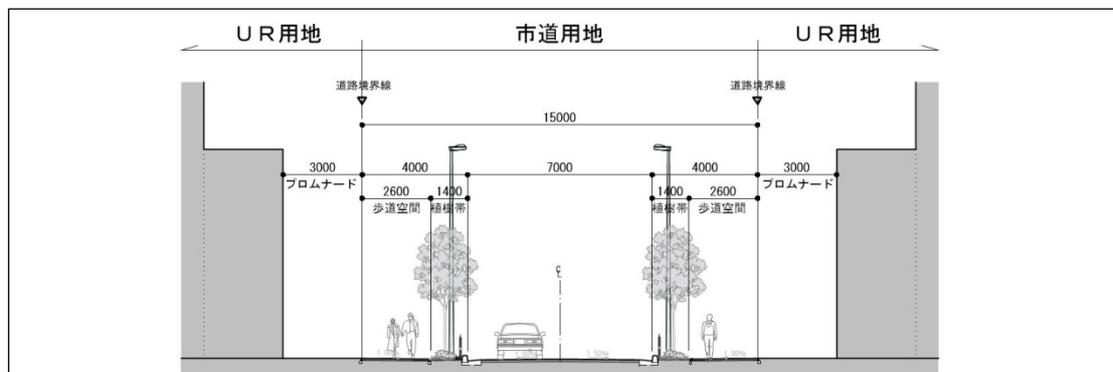
- 西端については、交通結節点として街角広場を整備するとともに、シンボル樹として、クスノキまたはタブノキを植栽することを検討します。
- この区間は、南北両側とも具体的な施設計画が未検討の状況ですが、具体的な検討を行う段階で、本整備実施計画の考え方に基づき、整備内容を検討・調整します。

#### ■鉄砲道平面図

\*アイストップ：人の注意を向けるように意識的に置かれたもの。

## ⑤断面構成の基本的考え方

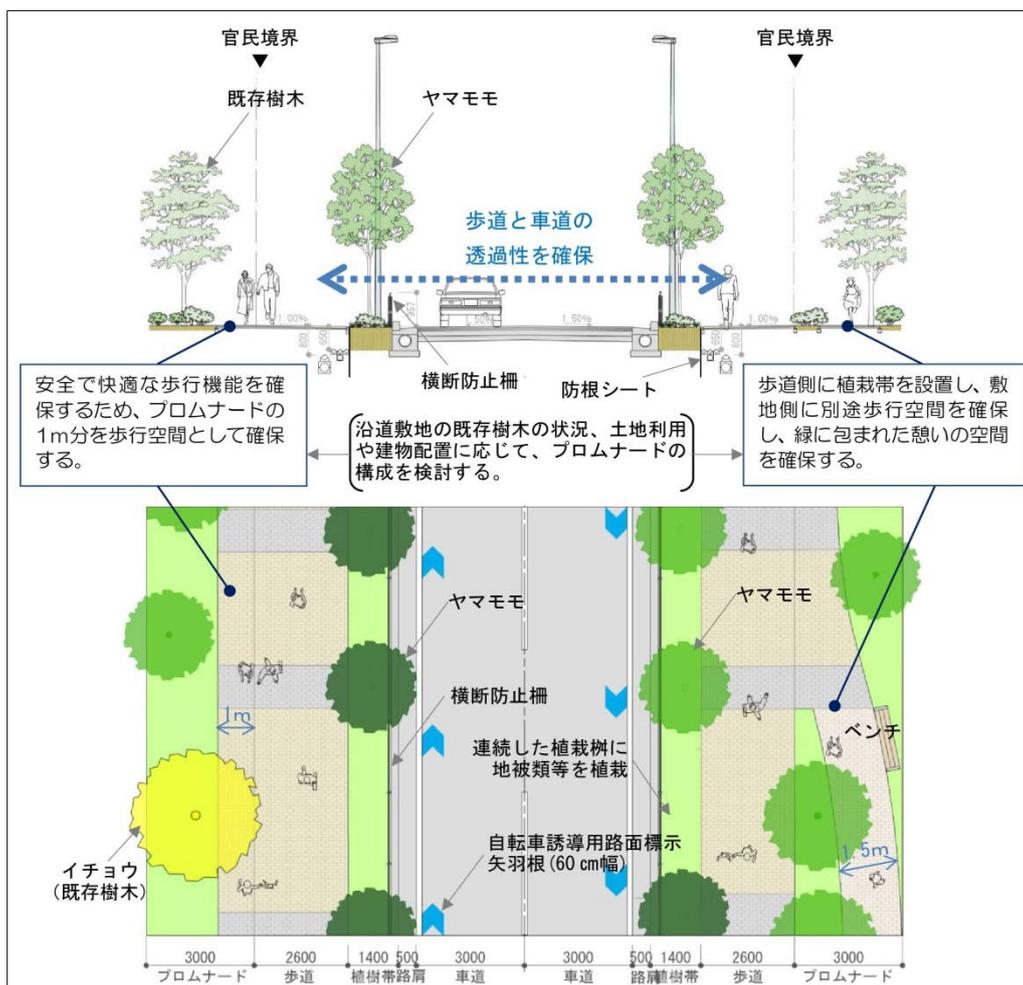
既存のヤマモモを活かすとともに、電線類地中化の特殊部についてはプロムナード内にヤマモモを植栽することを検討し、連続性を創出します。ヤマモモの足元は地被類とし、透過性のあるすっきりとした景観を創出します。また、プロムナード内は既存樹木の保全活用を検討するとともに、多様性のある歩行者空間の実現を図ります。



■断面構成図

### (ア) 既存のヤマモモを残すことができる場合

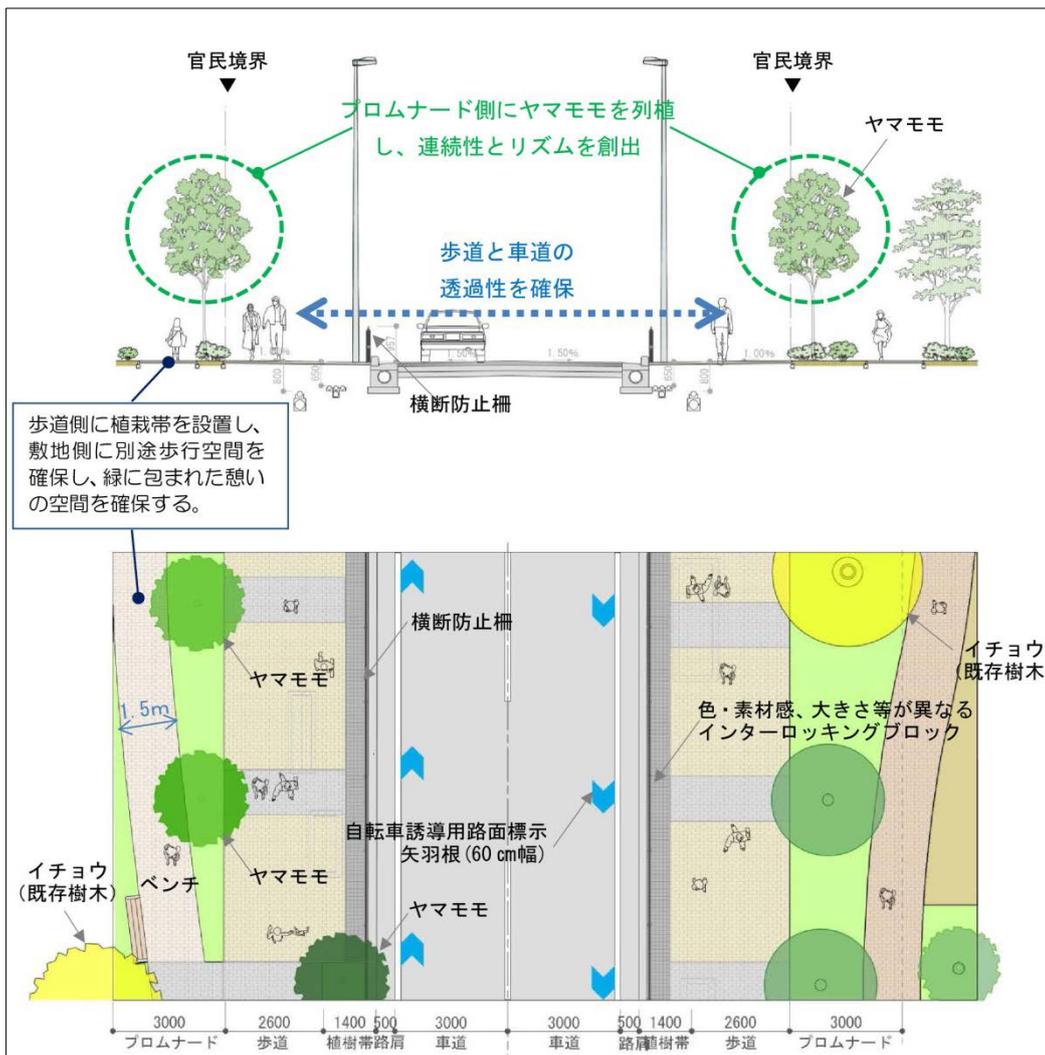
- 既存のヤマモモを保全活用し、横断防止柵に加え、植樹柵を連続させます。
- ヤマモモの足元については、樹木の根の盛り上がり等を考慮し、地被類や草花を中心に多様な植物を植栽し、園芸的な楽しみを体感できるようにします。



■断面・平面イメージ図

(イ) 既存のヤマモモを残せない場合

- 沿道土地利用や敷地内の既存樹木の状況を考慮し、プロムナード側にヤマモモを列植することを検討し、連続性とリズムを創出します。
- 横断防止柵に加え、車道側 60cm を一般部とは色や素材感、大きさ等が異なるインターロッキングブロックとし、乱横断を防止する工夫を行います。



■断面・平面イメージ図

## ⑥舗装及び道路付属物等の考え方

舗装及び道路付属等については、鉄砲道のデザインの基本的考え方やデザイン構成要素等の方向性に基づき、左富士通りとデザイン要素を統一することで、わかりやすいまちの骨格の具現化を図るものとします。



左富士通りの歩行者空間の舗装と横断防止柵



左富士通りの道路照明灯

## ⑦植栽計画

沿道の既存のヤマモモを保存し、十分な歩行空間をの確保を図りながら、地区の記憶を継承する緑豊かな街路空間を演出します。

### (ア) 道路空間の樹種

#### 【生活拠点ゾーン】

- 生活拠点ゾーンの高木は事業者提案のカツラとし、低木・地被類については H・G 街区の敷地内の樹種と同じ組み合わせとし、歩行者空間の一体性を確保します。

#### 【住宅地ゾーン】

- 高木は、既存のヤマモモとします。
- 足元は帯状の植栽樹を原則とし、フィリヤブラン、タマリユウ、ヒペリカムカリシナム、アガパンカス、ヒリフェラオーレア、セイヨウイワナンテン等の地被類を混植します。

### (イ) 民間敷地（プロムナード）の樹種

#### 【生活拠点ゾーン】

- 生活拠点ゾーンは、事業者提案に基づき落葉樹と常緑樹を組み合わせることを基本とします。
- 左富士通りとの交差点部はケヤキとハナミズキ、西側の区画道路4号側はサクラを組み合わせ、低木と地被類は草花等、歩く楽しみが感じられる樹種を選定します。
- 区画道路4号との交差点についてはアイストップとして、樹冠のあるクスノキやタブノキを植栽し、アクセントをつけます。

#### 【住宅地ゾーン】

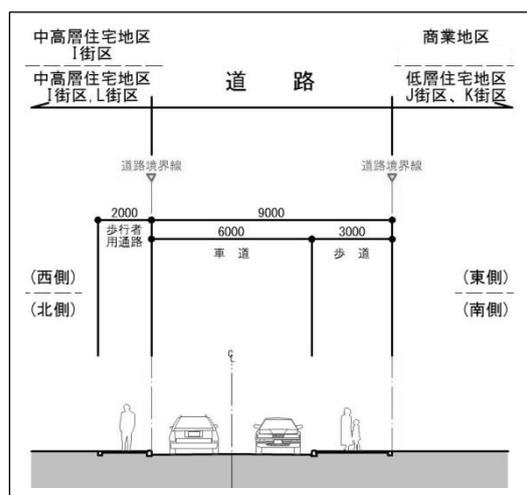
- 道路内にヤマモモを植栽できない場合は、プロムナードにヤマモモを列植することを検討し、連続性を確保します。

- 
- その他の部分については既存樹木の保全活用を図るとともに、既に整備された住宅地における沿道植栽の考え方を参考に、ヤマモモとの対比を考え、四季の変化を五感から楽しめる歩行者空間となるよう樹種選定を行います。
  - 地被類の組み合わせ等については、園芸的な楽しみを体感できるよう協議・調整します。
  - なお、沿道街区の土地利用が明確になった段階で、上記考え方にに基づき調整を行うこととします。

## イ 区画道路（4号～6号）

### ①区画道路4号

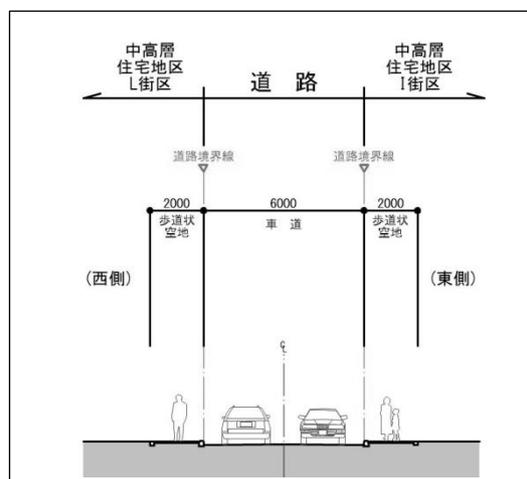
- 区画道路4号は、生活拠点ゾーンから中高層住宅地区や低層住宅地区につながる幅員9mの道路です。
- 道路内に3mの片側歩道を確保し、歩道が整備されない北側については、沿道敷地内において、地区計画に基づき幅2mの歩行者用通路を確保し、道路と一体化した快適な歩行者空間を整備します。
- 景観及び防災の向上に配慮し、無電柱化を検討します。



■断面構成図

### ②区画道路5号

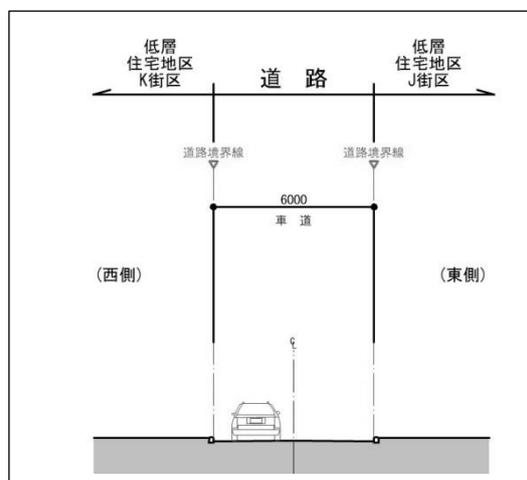
- 区画道路5号は、鉄砲道から、中高層住宅地L街区とI街区の間を通り、低層住宅地区につながる幅員6mの道路です。
- 歩行者の安全性、快適性に配慮し、道路に接する沿道敷地内において、歩道状空地を確保するよう誘導します。
- 景観及び防災の向上に配慮し、無電柱化を検討します。



■断面構成図

### ③区画道路6号

- 区画道路6号は、低層住宅地区J街区とK街区の間を通る幅員6mの道路です。
- 低層住宅地区へのアクセス動線として、通過交通の発生を抑制し、歩行者の安全性、快適性に配慮した歩車共存道路として整備します。
- 景観及び防災の向上に配慮し、無電柱化を検討します。



■断面構成図